



第 25 回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会

【寄附金、広告掲載、企業・書籍展示、
Spine Leader's Lecture、ハンズオンセッション、
ランチョンセミナー、Tea time セミナー】

開催趣意書

会 期

2018 年（平成 30 年）9 月 14 日（金）・15 日（土）

会 場

シェーンバツハサボー （東京都千代田区平河町 2-7-4）

会 長

谷口 真 （東京都立神経病院脳神経外科）

大会事務局

〒107-0062

東京都港区南青山 2-22-14 フォンテ青山 1206

TEL/FAX：03-6804-1044

E-mail 1：office@jpstss.jp

運営事務局（会場設営担当）

〒135-0063 東京都江東区有明 3-6-11 TFT ビル東館 9 階

株式会社プロコムインターナショナル内

担当：石田

TEL: 03-5520-8821 FAX: 03-5520-8820

ご担当者各位

謹啓

初冬の候、貴社におかれましては益々ご清栄の段お喜び申し上げます。平素は当研学会の事業に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、きたる2018年（平成30年）9月14日（金）・15日（土）にシェーンバツハサボー（東京都、千代田区）において、第25回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会を開催させていただくこととなり、現在準備を進めております。

本学会は「世界同時進行」「整形外科と脳神経外科の情報交換」「所属施設にとらわれない個人レベルでの参加・自由な意見交換」という特色を持っておりますが、概ね参加者の8割が整形外科医、2割が脳神経外科医です。今回は、シンポジウムとして、そろそろ日本でも使用可能になる「頸椎人工椎間板」についてその概略・現在までの臨床成績などの情報を共有します。また、この事と無縁ではないもうひとつのテーマとして「新技術の臨床導入」プロセスそのものを取り上げました。誰が処方箋を書いても量さえ適切なら結果が同じになる新薬と違い、手術の場合は、それを行うのに必ず外科医の手を必要とします。残念ながら、どんな外科にもラーニングカーブが存在しており、たとえどんなに周到な事前準備をしても新技術の導入当初から全てが満点にはなりにくいのもまた事実です。他国で既に市場にある製品の導入にせよ、本邦で独自に開発した製品にせよ、従来は、医師個人個人の倫理観・自律学習に大きく依存していたその導入プロセスが、現在は徐々に管理の下に置かれつつありますが、そもそもどうすれば誰もが納得出来る導入の仕組みが出来るのかについてまだ完全な答えは出ていないように思います。この点について行政・学会・業界・そして医師個人個人が現状ではどのような役割をはたしており、今後それがどう変わる必要があるのかについて一度考えてみる事は無駄では無いと思います。

さて、本会は脊椎インスツルメンテーションの手術技術向上に主眼を置いた学会ですが、戦争が戦略と戦術の両方を必要とするように、手術も最後に行き着くところは「どのような患者さんの、どのような問題点に、どういう手術を提供するのが一番良いサービスか」という戦略の立て方です。戦略面の考察無しに方法論だけを議論しても片手落ちです。今回の主題「困難な症例への挑戦」では、脊椎インスツルメンテーションの世界で現在みんなが共有している問題、例えば骨粗鬆症に伴う脊柱変形をどうするか、パーキンソン病の脊柱変形の

ように中枢要因で脊柱バランスが崩れてしまった人達をどうするか等々、治療戦略に関する議論を抜きにしては答えの出ない問題を取り上げます。

また、学会の周辺企画として整形外科の先生方には目新しい、顕微鏡下での手術用ドリル実習セミナーを予定しています。90年代に脳神経外科の領域は手術用ドリルの進歩とともに頭蓋底領域に拡大し、安全なドリリングテクニックを身につけることで、頭蓋骨の中に埋まっていた外から見えない重要構造物を避けて頭蓋底の深部病変にアプローチする事が可能となりました。従来は大脳を牽引して無理矢理のぞき込んでいた深部の景色を、視野を遮っている頭蓋底の骨を削ることで脳に負担をかけることなく見る事が出来る様になったわけです。もちろんこのためには、顕微鏡の下でのドリリングテクニックを身につける必要がありましたが、そのテクニックの基本は脊椎外科でも応用が可能です。脳神経外科出身の会長として、整形外科の特に若い先生方に向けて、安全な手術のためのノウハウを情報発信したいという意図を込めて企画させていただきました。

これら新しい企画を盛り込んだため本会の参加予想数は従来より多い約600名を見込み、その運営経費としては約29,126千円を推算しております。学会は本来参加者の会費にて運営されなければなりません、皆様方の多大なるご援助がなければ準備・運営できないのが現状であります。つきましては時節柄大変恐縮とは存じますが、本学会の重要性をご理解いただき、なにとぞご寄附を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様方の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

謹白

第25回 日本脊椎・脊髄神経手術手技学会(JPSTS) 学会 学術集会

会長 谷口

(都立神経病院脳神経外科部長)

